



特定非営利活動法人 地域生活サポートセンターじゅぶ 通信

ぬぶぼん

特定非営利活動法人 地域生活サポートセンターじゅぶ 通信 「ぬぶぼん」 第4号 2005年5月



2005.2.15~16 障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動の様子

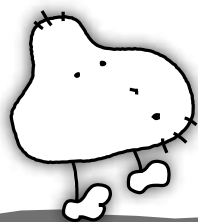
障害福祉の危機!

今号の内容は…

ヘルパー日記

グランドデザインを考える(2)

研修報告



2005.5 第4号

ヘルパー 日記 vol. 2

4がつ19にち てんきはれ

担当

東江 勇 さん

タイトル

ガイヘル専門

おじさんヘルパー ポ・ト



こんにちは、一與(イチクミ)さんに続いて登場させていただきました“おじさんヘルパー東江(トウエ)”です。当事者と関わりを持たせてもらって1年に満たない新米です。“じゅぷ”の利用者さんのいるところ、どこでも(^.^)ポ・トEのお方です。ポ・ト

皆さん方にお会いし、生活の一部に接しただけで毎日の自分にむち打っているこの頃です。

ガイヘル専門`r(^.^;)ポリポリですがOさんとの新幹線使って東京行き珍道中。一泊だけでしたが正直しんどかった。公共交通機関での移動がいかにも大変か。冬にもかかわらず、汗だく。でも、その中でも同行していて満足げなOさんの顔を見たら疲れも飛んでしまいました。じゅぷのKさんと渋谷で合流するのに、ハチ公前で待ち合わせ。交通バリアーに阻まれ予定時間に大幅に遅刻したりして大変でした。でも、当事者と共に行動してこそその楽しい体験等々もありました。高齢者介護を主に研修を受けていました自分が、じゅぷの利用者さん

に関わり、障害に立ち向かって自立生活されている姿を知って、感動の毎日です。ヘルパーをしていて、バリアフリー社会にはまだまだなりきっていない現実を痛感しているこの頃です。にもかかわらず障害者自立支援法が現在、国会で審議されています。まだ間に合うと思います。政令とかやらが定められてしまったら終わりです。最低でも今の生活が守れる制度になるようにあらゆるところで、どんどん声を出しましょう。もの言いましょう。障害を持った人の生活は障害を持った人しか分かりません。そんなことが今分かった頼りないヘルパーでたいした力になれませんが自分も機会あるごとにいろんなところで声だし、訴えたいと思っています。こんなおじさんヘルパーもいる“じゅぷ”ですが、スタッフは若いパワーのある方々ばかりです。近くを通りがかれば立ち寄って下さい。ひよっとすればお会いできるかも(^.^)そのときには声掛けてやって下さい。

どうなる? どうする? 障害者福祉の抜本改革 グランドデザイン案を考える(2)

昨年10月に厚労省が発表した「グランドデザイン(案)」が「障害者自立支援法(案)」としていよいよ国会での審議に入りました。(何それ? って方は前号もお読み下さい。)この法案が成立するとどうなるのか、ホームヘルプ関係で利用する人に直接影響することを簡略に書き上げてみました。みなさん厚労省はこんなことを実施しようとしているのですよ!

●障害程度区分って?

介護保険のように障害の重さによっていくつかの区分に分けるといこと。厚労省は市町村格差をなくすために「共通の尺度」が必要という理由で、いくつかのチェック項目(介護保険は79項目)によって区分けすると言っています。介護保険では6段階ですが、この方法ではうまく判定できないと批判が多いのに同じ事するのでしょうか?それに障害の程度が同じでも生活のスタイルは人それぞれに違うはず、支援費制度の「個人のニーズに基づく支給決定とサービス」と言う理念はどこに行くのでしょうか?

●市町村審査会って?

介護保険と同様に審査会で2次判定をされます、委員は医療関係者などの専門職で占められる可能性があります。専門職と言っても医療関係者が地域での生活のこと分かるのでしょうか?そもそもその人の生活実態を知らない人が支給量を決めるのってヘンじゃない?

●費用負担はどうなる?

利用者が1割を負担するとされています。例えば身体介護1時間なら支援費は4,080円、身体介護を伴う移動介護5時間なら11,850円(ともに大津市の場合)。その1割です、みなさん払えますか?負担額には上限があり40,200円

/月です。収入のない人でも年金1級受給者で24,600円/月、年金2級受給者でも15,000円/月の上限までは支払わなければいけません。そもそも必要だから利用するのにどうして負担が必要なのでしょう?

●移動介護はどうなる?

支援費制度によって大幅に利用ののびた移動介護ですが、この法案では国の事業からは外され、市町村の事業となります。支援費以前のように市町村の委託事業となり、現在の指定事業者が委託を受けれるかどうかは分かりません。それどころか市町村によっては移動支援事業自体を行わないかも!

●重度障害者等包括支援って?

「常時介護を要する障害者等であって、その介護の必要の程度が著しく高いもの」に対しては包括的にサービスを提供するというもので、具体的には難病であるALS(筋萎縮性側索硬化症)などの方が対象になるようです。包括的とは1ヶ月いくらと金額を決めてそれで全てを行うという方法だそうで、金額がまだ決まってはいませんがおそらく低く設定されるでしょう。そうすると現在と同様のサービスを利用することができなくなる可能性があります。どうすればいいの!?

このように現在の支援費制度よりも利用しにくくなりそうです。なんと、厚労省は予算を削るためにこの法案を通そうとしています。理念のない改革の犠牲にされるのは障害当事者ですよ! 全国規模で抗議行動も起きていますし、大津・湖南地域でも各団体の主催で勉強会や行政との交渉を実施しています。随時お知らせしますのでみなさまご参加下さい。(染井)

研修報告

福祉フォーラム5 in 鳥取

2005.1.15~16

雪の舞う1月15、16日の2日間、鳥取県米子市で行われた「福祉フォーラム5 in鳥取 ぜんしんぜんしんノーマライゼーション」に参加した。初めての鳥取、そして一人でという事で心配だったが、在来線の始発、新幹線、特急やくもに乗りつぎ、無事米子へとたどり着くことができた。

今回は、支援費が揺れ動く時期に、現場で働くもの、また、制度政策面から障害者の生活を見る、知事、厚生労働省職員など、様々な立場からの話が聞けることも有り、全国からたくさんの方が参加していた。

1日目は全部で三幕あり、支援費の行方や、新しくできる「障害者自立支援給付法(仮名)」についての論議が交わされた。滋賀県のサービス調整会議も議論に上がり地域での暮らしを支えるために、「一人の不安を一人だけの不安にしないため」の調整会議をしていこうという事や、滋賀特区が紹介された。一番の論点はやはり、これからの支援費、また障害者福祉の行方についてだった。これからは、もっともっと障害を持っていても、「選択」できるしくみをつくっていかなくてはならない。障害を持っている人はここにいますよ、というのではなく、本人が選び納得して生活の主体者となっていく。そして、毎日生活をし、働き、そして何より生きることを楽しめる環境を作っていくことが必要なのではないか。そのためには、市町村の責任のもと、コーディネーターをいかに活用し、地域での生活を考え、行政ではなく、本人が主役となり、地域でとけこめるかという事に焦点が当てられるべきだろう。というような方向性の話がなされた。また、その財源をどのように確保していくかということも今後の大きな課題で

ある。財政難の矛先は、応益負担という不条理な言葉で利用者に向けられようとしている。今こそ、連帯して声をあげていくときではないのだろうか。

1日目終了後の夕食会では、せっかくの機会なので、ビール片手にいろんな人に声をかけて、じゅぷで今とりくんでいるコパン(準備中…)のことなどについて考えを聞かせてもたったりした。慎重に物事は進めるべきだとか、やってもてから考えたらいいねん!とか、それぞれに経験に裏打ちされた熱い思いをもった人ばかりで、まだまだひよっこだなという事を痛感した夜だった。

二日目も雨。この日は1日目の話を、鳥取県としてどう考え、反映させていくかという事が、話の中心となっていた。

フォーラム終了後、1日目の夕食時に知り合った、沖縄のケアワーカーさんと2人で、米子駅からバスに乗り、皆生温泉へ。旅館の日帰り湯で、旅の疲れを癒しました。

2日間を通しての感想。今回はパネラーが県知事、また厚生労働省の職員だったこともあって、制度上、また財政上の問題ばかりが論点となった。実際に毎日障害を持つ方と接している立場の話は少なく、少し物足りなさを感じるフォーラムだった。しかし、自分の見えない視点での話を聞くという点では広い視野をもって物事を考えていけるよい機会となったのではないかと思った。益々変貌を続ける障害者福祉。ついていくためにこれからも日々勉強しなければ… (熊澤)

アメニティーフォーラム in しが

2005.2.11~13

毎年この時期に行われる生活支援関連では最大のイベントであろうこの大会も8回目となる。ここ数年は知事など各首長の登壇、そ



の場での重大発言が話題になっている。ウワサでは次回で終わるとか。毎年そんな話を聞くような気がするが…。

じゅぶとしてはここ3年ブースを出展させてもらっている。ブースでは事業の紹介や報告を展示し通信など販売している。ブースはロビーに設けられるので出展することでフォーラム自体への参加が短くなってしまいうのだが、全国の人たちとの交流こそが参加の意義だと思っているので気にはしていない。

今年は目玉として以下の4点を挙げた。それぞれに対する反応は以下の通り。

①ちゅぶ&滋賀特区

ちゅぶのような事業は全国的に同様にされているところも多くめずらしくもない様子。比較するとちゅぶは安い。滋賀特区はもっと気をひくかと思ったが、他県の人にはたちまち役に立つわけではないからかさほどでもない。

②ヘルパー研修

多くの事業所が抱えている課題らしい。「日常…」や「知的ガイド…」をご存じない方も多く資料も受注生産にもかかわらず10部ほど売れた。

③ALSの方の吸引

ごく一部の方にはあるが反応は大きかった。これも同意書などの資料を5部ほど販売した。

④コパン休止中

休止中にもかかわらず挙げさせてもらった

のは情報を得るためであった。しかし毎年のことながら主旨には多くの方に賛同してもらえるのだが、同様の事業をおこなっているところは少ない。
(染井)

障害者の地域生活確立の 実現を求める全国大行動

2005.2.15~16

グランドデザイン案についての国・厚生労働省に対する抗議行動として、当事者団体を中心とした実行委員会の呼びかけで全国から1,200名以上の当事者・支援者が集まった。湖南「障害者」就労事業団関係からは10数名が参加した。1日目は厚労省前にて抗議文の読み上げ、提出、ピラマキ、街宣、一部の参加者は夜間まで座り込みを行った。相当に冷え込む中での座り込み、さらにこの日は3:00頃に地震が起き、4:00過ぎからは雨が降るという最悪の状況。翌日も大雨が降り続く中、2,000名近くの参加者が国会周辺でのデモ行進を行った。まさに命がけの行動だったように思う。この思いが伝わることを願うばかりだ。

その主訴は以下の通り

- ①「私たち抜きに、私たちに関することを決めないで下さい」
- ②当事者ニード・自己決定を尊重したサービス決定を
- ③障害者の地域生活・社会参加の根幹的サービスとしての移動介護を
- ④「必要なサービスを得られること」-実態と施策の整合性をもった負担の仕組みを
- ⑤障害者の地域生活・自立生活を重視したサービスのあり方の検討を
- ⑥「谷間の障害者」問題を解決する総合的な見直しを
- ⑦必要な事業費には全額国庫補助を、地域生活基盤整備の財源確保を (染井)

介助者募集中!

★守山・女性・夜間付き添い (21:00～翌2:00, 2:00～7:00)

★栗東・男性・夜間付き添い (0:00～8:00)

ヘルパー資格お持ちの方歓迎!ですが、じゅぷでヘルパー研修を受講して頂くことも可能ですので、資格をお持ちでない方でも相談応じます。上記以外にも随時募集しておりますので興味のある方はご連絡下さい!

ご意見

じゅぷでは研修事業をおこなっています。ヘルパー資格を得るための研修だけではなく実際に従事している人に対する研修もおこなっています。そこで今後の研修に向けての意見を募集します!

利用している人、従事している人、それ以外の方からも「もっと…の技術の向上を!」「…な時どうしたらよいか分からずに困った!」「こんな研修してみたら良いのでは?」などなど、意見を下さい。今後の研修の参考にさせていただきますのでよろしくお願い致します。

募集中

会員募集しています

会員の皆様には年数回の通信を発送させていただきます。(正会員の方には総会において議決権が与えられます)

- ・正会員(個人) 5,000円/年
- ・正会員(団体) 10,000円/年
- ・賛助会員 1,000円/年
(一口から何口でも可)

郵便振替 00940-3-189990

編集後記

- ◆ 皆さん、こんにちは。最近、日中がめっきり暑くなっていましたねえ。このあいだまで雪がちらついていたかと思っていたのですが、冬から一気に夏が来た感じですね。寒暖の差が激しく体調管理が難しいと思われるので、皆さんくれぐれも身体のケアには気をつけてください。暖かくなってきたことに伴い、皆さんよく寝られることはないですか?「春眠暁を覚えず」という言葉があります。「春の夜はまことに眠り心地がいいので、朝が来たことにも気付かず、つい寝過ごしてしまう」という意味だそうです。ちなみに私は絶好調に寝ています。
- ◆ 今回の「ぬぷぼん」も予定より大幅に遅れての刊行になりました。できれば、季節ごとぐらいに刊行したいのですが、なかなか予定どおりには進まないですねえ。
- ◆ 4月25日に発生したJR福知山線の脱線事故ですが、どうも主な原因が遅延回復によるスピードオーバーみたいで、これだけの大惨事になるとは誰も思っていなかったでしょう。人間あせってはいいいことがなく時間には余裕を持って行動したいですね。
- ◆ 学園通りに新事務所が移ったこともあってか以前に比べ来客が多く、事務所内がにぎやかになる状況が多いです。事務所内には応接スペースもできましたので、皆さんも時間があればぜひお越しください。お茶ぐらいは出しますよ。(阿部)